

事業場において治療と仕事の両立を支援するための配慮とその決定プロセスに関する研究 (200201-01) 令和2-4年度研究結果の概要

研究代表者 江口 尚 (産業医科大学産業生態科学研究所産業精神保健学研究室・教授)

分担研究者 堤 明純 (北里大学医学部・教授)

佐々木治一郎 (北里大学・教授)

須賀万智 (東京慈恵会医科大学・教授)

渡辺 哲 (神奈川産業保健総合支援センター・所長)

山野嘉久 (聖マリアンナ医科大学医学部・教授)

斉藤 聡 (横浜市立大学医学部・教授)

古屋博行 (東海大学医学部・教授)

森田哲也 (株式会社リコー・プロフェッショナルサービス部人事総務センター
総務サポート室・グループ統括産業医)

梶木繁之 (株式会社産業保健コンサルティング アルク・代表取締役)

北居 明 (甲南大学経営学部・教授)

森永雄太 (武蔵大学経済学部・教授)

井上彰臣 (産業医科大学 I R推進センター・准教授)

武藤 剛 (北里大学医学部・講師)

研究結果の概要

本研究では、ガイドラインが示す両立支援をより一層普及させていくために、これまで両立支援に関する研究を推進してきた産業保健、臨床医学、経営学の研究者を分担研究者、当事者、法律家、社会保険労務士、人事労務担当者を研究協力者とした研究班を組織し、両立支援を行う際に、労使間の合意形成がなされるプロセスについて、両立支援の環境整備の組織レベルと両立支援の実施の個人レベルに分けて事例収集し、収集した事例から、指標となる組織レベル、個人レベルの標準的な合意形成のプロセスとその評価指標、マニュアル、事例集の提案を目的とした。

1年目は、先行研究レビュー、関係者のニーズ・事例収集と分析、組織レベル、個人レベルの標準的な合意形成プロセス案の作成に必要な情報収集を行った。難病患者の治療と仕事の両立支援 (以下、両立支援) に関する先行研究のレビューを行い、標準的な合意形成に必要な要素が抽出できた。がん薬物療法専門医に対してがん患者の就労支援に対する調査を行い、がん薬物療法専門医のがん患者の就労支援に対する意向を把握した。社会保険労務士や産業医から良好事例を収集した。聖マリアンナ医科大学、北里大学、横浜市立大学から両立支援に関する良好事例を収集した。職場の協働的風土ならびに労働者の被援助に対する態度に着目し、中小企業の労働者において、両立支援の申出意図を促進し得る要因を収集した。職場の協働的風土ならびに労働者の被援助に対する態度に着目し、中小企業の労働者において、両立支援の申出意図を促進し得る要因を収集した。肝疾患コーディネーターにも肝疾患患者の両立支援をする上で役割が担えることが明らかになった。産

業医の選任のない事業場においても、両立支援に関する労使間の合意が得ることができるようなシステム作りにも着手できた。経営学分野においても、両立支援に応用可能な先行研究があることが確認でき、労使間の合意形成プロセスを検討する上で活用できることが確認できた。先行研究による開発され田中小企業を主眼とした治療と仕事の両立推進のための事業場内環境整備達成チェックリスト30の妥当性検証することにより、本研究班での成果物を作成する際の留意点が明確になった。先行研究のレビューにより、事業場における治療と仕事の両立支援に係る労使間の合意形成プロセスを評価するため指標を開発に必要な情報の整理を行った。

2年目は、産業医経験のある医師10名からのなるチームを組織して、がん患者を対象にした企業内における合意形成プロセスに資する支援システムをウェブ上に構築した（URL：<https://www.chiryousapo.com/>）。難病患者の就労に関する研究のレビューを行い、モデルに資する情報を抽出した。その結果を、産業医学レビュー誌（令和3年5月号）にて報告した。また、経営学に関する先行研究から、治療と仕事の両立支援に役立つ概念として、ウェルビーイング経営、リーダーシップ、ジョブ・クラフティング、ワーク・エンゲイジメント、解決志向マネジメント、アプレシエイティブ・インクイリーについてのレビューをまとめ、産業保健と看護誌に報告した。産業医科大学病院、東海大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院の医療相談窓口や両立支援外来からの事例の収集を行った。横浜市立大学附属病院においてはリーフレットの作成、聖マリアンナ医科大学においては両立支援外来を分院でも開設した。また、神奈川県産業保健総合支援センター主催で神奈川県内の4大学病院及び2労災病院（横浜労災病院、関東労災病院）が事例の共有をする場として神奈川モデルの連絡会を開催し、事例の共有を行った（2021年10月）。産業保健総合支援センターにおいては、神奈川県の全てのがん診療連携拠点病院/指定病院（31件）との間での協定締結が完了し、各病院からの相談対応実施件数が増大した（約90件）。事業者等に対する個別訪問支援を行った（10件）。このような活動を通じて事例収集を行った。初年度に抽出・整理した、両立支援に係る労使間の合意形成プロセスに必要な情報に、研究代表者及び研究分担者の分担研究から得られた内容を追加し、情報の拡充を図るとともに、教示文の追加とチェックリスト形式へのレイアウト編集を行い、評価指標案を作成した。

3年目は、引き続き、産業医経験のある医師10名からのなるチームを組織して、がん患者を対象にした企業内における合意形成プロセスに資する支援システムをウェブ上に構築し、各分担研究者からの成果物や動画の掲載等、コンテンツについて改善を行った。産業保健総合支援センターにおける治療と就労の両立支援の取組状況を研究班としてフォローしシステム上への反映につなげた。両立支援啓発のためのリーフレットを作成し、オンライン質問票調査を実施し、中小企業経営者を対象とした協働的風土醸成の経営上のメリットの理解を促す広報資材を普及させることで、労働者からの両立支援の申出のハードルを下げることに寄与し得る示唆を得た。聖マリアンナ医科大学において、横浜市西部病院に

両立支援外来を新設し症例の蓄積を進めた。横浜市立大学附属病院では、特に消化器疾患における医療機関での両立支援の取り組みに関する現状を評価し、これからの課題の解決を進めた。東海大学では、職域を対象として肝炎医療コーディネーターの養成研修を実施した。治療と仕事を両立させようとする従業員の活躍を支援するタイプのリーダーシップとしてインクルーシブ・リーダーシップを取り上げ、文献レビューを行い、その成果に基づくコラムをシステム上に反映した。インターネット調査を実施し、治療と就労の両立支援を促進する文化と阻害する文化の2因子を抽出した。その結果については、成果物としてシステム上に反映した。合意形成プロセスの評価指標については、システム内でよりアクセスしやすいように改善した。今年度の研究成果をもって、組織レベル、個人レベルの標準的な合意形成プロセス案の作成、チェックリスト、マニュアル、評価指標の作成を完了した。

本研究班では3年間の研究期間において、多くの成果を出すことができた。その成果の一部を第96回日本産業衛生学会メインシンポジウム2「治療と仕事の両立支援のためのコミュニケーション」で報告した。これらの成果が小規模事業場における治療と仕事の両立支援を促進することに少しでも役立つことを期待したい。

治療サポ

お問い合わせ よくあるご質問 治療サポについて [主治医に検索する検索](#)

ツールを使う 使い方・機能 配慮事項を検索する 配慮事項一覧 両立支援の事例

本人の思い、上司の期待、
人事の願いを一つに。

主治医の理解と支援を引き出すサポートツール

ツールを使う

職場で配慮したほうがいいこと
職場で配慮すべき事項の代表的なものです。

 余裕のあるスケジュール	 遠隔地の出張や単身赴任への対応	 通勤手段の数量度アップ	 在宅勤務制度の活用
 連続作業時間の制限・休憩場所や機会の確保	 就業時間中の食事や水分の摂取環境の整備	 立位作業の制限・座位作業の励行	 身体的負担の少ない作業への転換
配慮事項の一覧 >			

がん患者さんのための / **治療サポ**

治療サポとは | よくあるご質問 | 学習情報 | 配布物 | アプリ | 主治医へ送付する資料

両立支援の流れ | 治療サポの使い方 | 配慮事項を検索する | 配慮事項一覧 | 両立支援の事例 | 面談のデモ

両立支援コラム

2023.05.23	治療と仕事の両立を支援する組織文化の実証研究
2023.05.23	人事の仕組みよりリーダーシップ
2023.05.23	職場における事前要請

利用規約 | 個人情報保護方針 | お問い合わせ

© Chiryou-sapo.com. All Rights Reserved. ver.221220

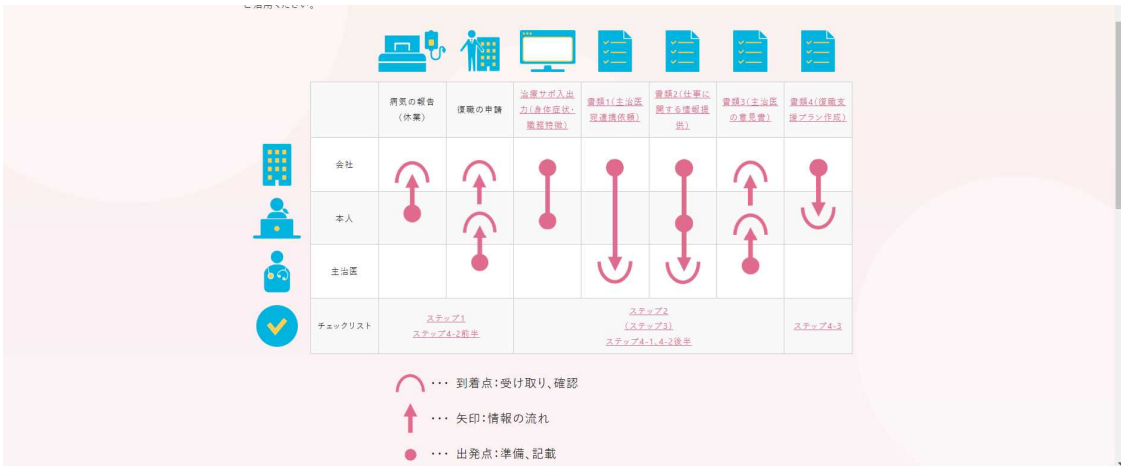


図 治療サポ (<https://www.chiryou-sapo.com/>) のイメージ